
人類滅亡

ポテトバサー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

人類滅亡

【Nコード】

N6764N

【作者名】

ポテトバサー

【あらすじ】

短編小説一作目

人類が死ぬことが滅亡なのか？

短いので気軽に読んでみてください。

（前書き）

私なりの人類滅亡。

「どうだね？ この星は？」

コンプコンプ星人はある星のまわりを移動しながら調査をしていた。

「ええ、順調です。ですが200年前の調査報告とはかなり違いが生じています」

「いくら、こんな田舎の未開拓な星でも、200年もあれば文明は発達するだろう」

「それは、そうなのですが……」

部下のコンプコンプ星人は首をかしげていた。

「この星は私達の星や、今まで調査してきた星と全く違うのです」

「遠回りはよしてくれ。つまりどう違うのだ？」

「はい、まずは未だに戦争をしていることです。次に……」

「ちょっと待て、戦争だと？」

コンプコンプ星人の上司は部下の『近道』をさえぎった。

「まだ争っているのか！？」

「はい。仕掛けたり、やり返したりと…… こういうことを、この

星の小さな島国の言葉でイタチゴツコーと言つらしいです。ふふっ…」

部下は笑いをこらえるのに必死だった。

「なに！？ イタチゴツコー？ き、君それ本当かね？ ぷぷっ…
… 似たような言葉でも、星が違えば意味が変わるものなのだな」

上司も部下と同じだった。

「ゴホッソ！！ んんっ！！ それで二つ目は？」

「二つ目は医療です」

「医療か… だがその発展は文明を支えていくものだ。まあ、使い方によるが……」

「確かにそうなのですが、いささかやりすぎかと……」

「だから遠回りはするな」

「はい。私達に近い『人間』という動物は不思議な生命で、『生』を大事にするあまり自分の身代わりを作ってしまったのです」

部下は上司のほうにイスを回転させ、資料を手渡した。

「自分の肉体が壊れたときに、人工的に作り出した『人工体』にデータを移し、何事もなかったかのように、また生活を続けていくのです」

「ふむ……」

「また、新しい生命を操作し、より不自由なく便利なものにしてしまっています。例として、『ブタ』という薄い桃色をした可愛らしい動物は、食用として使われる部位を強制的に4倍にされてしまっています」

「ふむ……」

「あの…… 中間報告はどう書いたらいいでしょうか？ 人類はまだまだ文明をのばしていく、という感じで進めていいでしょうか？」

「いや、中間ではなく最終報告だ。それに一言、『人類滅亡』と書けばいい」

「えっ!？」

「この生命はもはや人間ではない。先人達が作り上げてきた、人間の倫理をこえてしまっている。『人工体』まで作ってしまうほど『生』というものを考えておきながら、互いを殺しあう…… 本来人間なら『生死』を受け入れ戦争という幼稚なこととはしないはずだ。そう…… 人間は人間ではなくなつた。その時点で『人類滅亡』なのだよ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6764n/>

人類滅亡

2011年10月7日15時15分発行